

平成25年度岡山県文化振興審議会議事概要

日時 平成26年2月7日(金) 15時～16時45分

場所 おかやま旧日銀ホール(愛称ルネスホール) 芸術・文化ワークルーム

1 開会

環境文化部文化スポーツ振興監あいさつ

2 会長・副会長選任

会長に臼井委員、副会長に佐々木委員を選任

3 議題

「おかやま文化振興ビジョンの進捗状況について」

事務局

- ・資料に基づき説明

委員

- ・新規事業は新規性を求めたがるが、事業は継続性が大切で、いままで積み上げた物や蓄積の上に立って実施してほしい。
- ・成果指標は行政の評価指標で、数字だけが岡山の文化力ではない。
- ・岡山県文化振興条例前文、あるいは若者への手紙に書いてあることが、岡山でどれだけ実現できているかという問題を考えながら議論していかなければならない。

委員

- ・事業では、多くの人に関心を持ってもらえるように、アーティストと地域の人達との交流をもたらすものになるように進めてもらいたい。

委員

- ・キーパーソン育成事業は、技術的なものだけでは成り立たないので、携わる人が情熱を失わない仕組みがほしい。
- ・若い芸術家に無いのは資金なので、安い料金で利用できる施設、マンパワーの提供等、受け入れ体制ができてくるとよい。
- ・事業の幅を広げていこうとしたとき、地域の中で力を持っている人がどこにいるかわからない。手がかりがあれば、地に足が着いたことができる。

委員

- ・アートブリッジおかやま形成事業では、高齢化が進んだ団地での事業があったが、新しいものを入れるというより団地に祭りを再生させるものだったと思う。子どものワークショップでありながら60代、70代の方が元気ももらった。次世代がここで子育てをしたいと思う地域にしていくことが必

要と思う。

- ・人材育成では、文化だけでなく色々なジャンルの人を集めれば、より楽しい魅力あるものになるのではないか。
- ・成果指標について、子どもの数が減少しているので、実数より割合でとらえた方がよいのではないか。

委員

- ・音楽教育に日本的なものを取り入れる動きが出てきているが、現場では先生方の手が回らない面があるので、専門家の派遣を進めて欲しい。
- ・成果として数字をどこでも言われるが、内容が充実したかどうかが大それたと思う。

委員

- ・現代は人間が本来持つ手作業が少なくなっている所以、小学1年からの書写を行おうという動きがある。
- ・現代の言葉を自分で表現できる方向に書を持って行って多くの人に親しんでもらえるものにしたい。

委員

- ・文化振興ビジョンが前進していると感じた。
- ・文化と観光で情報を連携してもらいたい。東京のアンテナショップでも文化情報を発信するコーナーを設けてもらいたい。

委員

- ・文化財は時代背景を少し聞くと面白い。大正時代の西洋建築でトラス構造の導入などもっとクローズアップされてもいいものだ。近代化遺産は無くなったら文化財の意味が無くなる。行政にも大切にする姿勢を持ってもらいたい。

4 閉会